

■研究ノート

岩手県の誕生

菅野 誠 喜 (学芸調査員)

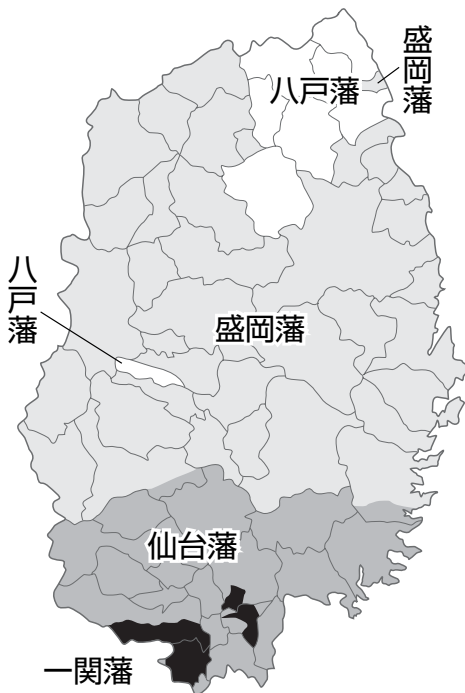
戊辰敗戦後の盛岡藩と仙台藩

現在の岩手県は県北部を盛岡藩・八戸藩の南部氏が、県南部は仙台藩・一関藩の伊達氏が支配していました。しかし、戊辰戦争の敗戦により、藩主謹慎、全領地没収後、政府の直轄地として諸藩の取締を受けることになりました。

仙台藩は、江刺・気仙が松本藩取締（花巻県）に、胆沢・東磐井・西磐井は沼田藩取締から前橋藩取締となり伊沢県と称しました。この時、東磐井の一部は一関藩の一部と合わせ平藩が転封となりました。

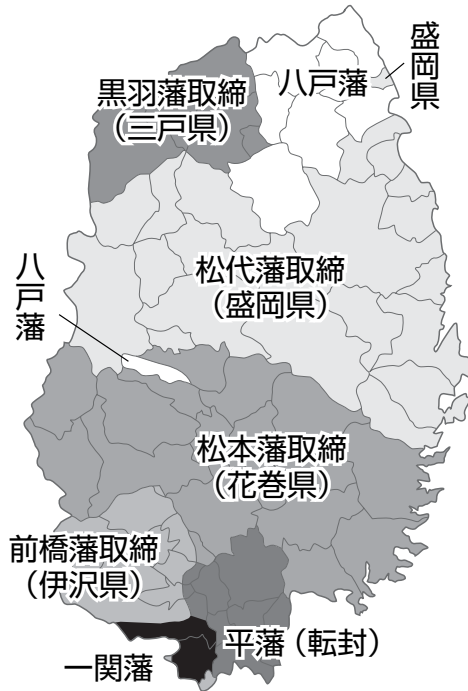
盛岡藩は和賀・稗貫・紫波が仙台領の江刺・気仙とともに松本藩取締（花巻県）に、岩手・閉伊・九戸の一部が松代藩取締（盛岡県）に、二戸・三戸は最初弘前藩取締となるものの、旧怨の反津軽感情による住民の反対により、黒羽藩取締となり三戸県と称しました。

戊辰戦争前



激変の明治2年

明治2年2月



3月、白石へ転封されていた南部利恭と八戸藩、一関藩が版籍奉還しました。7月、利恭が白石から復帰し、新盛岡藩が誕生しました。8月、前橋藩取締（伊沢県）が胆沢県に、松本藩取締（花巻県）が江刺県に、黒羽藩取締（三戸県）が九戸県にと変わりました。なお九戸県は1ヶ月の間に九戸→八戸→三戸と県名を変えています。

11月、青森県三戸郡を中心に下北半島から北海道の四郡にかけてと二戸の一部に会津藩が転封となり、斗南藩が成立しました。また、三戸県が江刺県へと合併となりました。

全国に先がけ廃藩置県

明治3年7月盛岡藩は廃藩置県を実施し盛岡県となりました。

これにより現在の岩手県の地域は斗南藩・八戸藩・盛岡県・江刺県・胆沢

県・一関藩となりました。9月、弘前・黒石・八戸・七戸・斗南・館（北海道）が県合併し、弘前県となるも同月23日には青森県と改称しました。

11月、江刺県が廃止となり、九戸も盛岡県に編入され、現在の岩手県の地域は、盛岡県（岩手・紫波・稗貫・閉伊・和賀・九戸）、青森県（二戸）、一関県（胆沢・気仙・江刺・東磐井・西磐井）となりました。一関県は同年12月水沢県に、さらに8年11月には磐井県と改称します。

現在の岩手県へ

明治5年1月、盛岡県が岩手県と改称しました。9年4月、磐井県が廃止され岩手県に編入、気仙が宮城県に編入となりました。5月1日には青森県だった二戸が岩手県に編入し、5月25日には宮城県だった気仙が岩手県に編入となり、戊辰戦争から9年の歳月を経て現在の岩手県が誕生しました。

明治4年7月

